平成　27　年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3770400400		
法人名	社会福祉法人　善通寺福祉会		
事業所名	グループホーム　仙遊荘		
所在地	香川県善通寺市仙遊町二丁目3番43号		
自己評価作成日	H27年11月20日	評価結果市町受理日	H26年3月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/37/

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人香川県社会福祉協議会
所在地	香川県高松市番町一丁目10番35号
訪問調査日	平成28年1月14日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

地域の方々やご家族の協力を得て、外出や庭で家庭菜園を行い、収穫した野菜で料理を行っている。またセラピー犬やセラピーキャットの導入により、今までの暮らしに小動物の世話と言う新たな生きがいを見いだせれている。地域貢献としては今年も善通寺境内のお地蔵様に前掛け奉納や、近隣の小、中学校、高等学校、養護学校の学生との触れ合いにより、福祉の仕事を目指す学生への応援を行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点】

事業所理念の「和顔愛語」を基に、利用者が地域とつながりを持ちながら、家庭的な雰囲気の中で、その人らしく暮らせるように、一人ひとりの尊厳や気持ちを大切にする支援に取り組んでいる。職員は、利用者・家族の意見や要望を聴いたり、理念の共有やサービスの在り方を話し合って、日々の実践に活かせるように取り組んでいる。娯楽やおやつ作り、ハンドマッサージ、散歩等について、定期的に地域ボランティアの支援を受けている。中学生・高校生の職場体験を受け入れている。公民館祭りに、利用者の作品を出展し、地域に出かけ高齢者との交流活動にも参加している。利用者を中心に、地域や家族、関係者と良好な人間関係を築き、安心で信頼される介護ケアを目指している。

Ⅴ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）		1. ほぼ全ての利用者の
		○	2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
		○	2. 数日に1回程度
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
ホー	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）		1. ほぼ全ての職員が
		○	2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 グループホーム　仙遊荘	「和顔・愛語」を理念とし、日々のケアは笑顔と思いやりを忘れず、家庭的な雰囲気の中で、地域交流を重視しながら、その人らしく役割を持ち、自信を持って穏やかに生活し続けることを目指し、ミーティング時等、理念を念頭に置き話し合っている。	事業所理念の「和顔愛語」を基に、利用者が地域とつながりを持ちながら、その人らしく暮らせるように、分かりやすく表現した理念を作成している。毎年、事業所の年間目標を作成し、ミーティング時等には、理念を共有し、サービスの在り方を話し合って、日々の実践に活かせるように取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の公民館まつりに作品を出展し、地域との交流を大切にしている。善通寺境内のお地蔵様の前掛け奉納は、毎年の恒例行事となっている。庭には家族と共にお花を植えて、道を通る方にも楽しんで頂いている。	公民館祭りに作品を出展したり、「イキイキときめき大学」に参加して、地域高齢者と交流しており、法人の祭りには、地域住民が多数参加している。地域との交流活動を積極的に取り組んでいる。娯楽やおやつ作り、ハンドマッサージ、散歩等について、定期的に地域ボランティアの支援を受けている。中学生や高校生の職場体験を受け入れている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	中学生や高校生の職場体験学習や実習を受け入れ、認知症の理解を深めていただける場を提供している。今年9月の福祉会祭りには、大勢の近隣の方々にも参加いただき、交流の場となった。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	日頃のご家族との話し合いの中で出てきた要望については、職員ミーティングで話し合い、必要に応じて、運営推進会議で実施に向けて話し合っている。また、サービスの実際についても報告を行い、意見を聞いている。	運営推進会議は、利用者や利用者家族代表、地域住民代表、地域包括支援センター職員などが参加して2か月毎に開催している。事業所の状況説明や報告を行い、年間計画に基づいて実施内容を話し合い、参加者から情報や意見をサービスに活かしている。	会議の参加者からは、それぞれの立場や役割で情報や意見交換をしているが、災害等を含めた地域との課題を改善や解決していくために、地域住民の参加者を増やすことを検討されることを期待したい。

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市高齢者課に毎月初めにご利用者の状況報告を行っている。運営推進会議には、地域包括支援センター職員もメンバーに入っていただいている。	毎月事業所の状況報告を行い、機会あるごとに情報や意見交換をしている。必要に応じて相談や助言を受け、協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠については、重要事項説明書に記載があり、説明して同意をいただいている。居室の施錠については、ご利用者の希望によりご家族にも同意をいただき、準夜勤者が施錠をしている。	身体拘束をしないケアを実践の基本とし、取り組んでいる。利用者が安全に安心して暮らすために、状態が不安定で、やむを得ず拘束をする場合には、利用者の負担が最小限になるように検討して、家族に説明し、同意を得ている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	職員研修の参加や事業所内の身体拘束虐待防止対策委員会で話し合う等の機会を利用して、虐待のない暮らしを目指している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度を利用しているご利用者もおられ、研修も毎年参加している。入居申込み時点で支援の必要と思われる方には、制度に繋げるお手伝いも行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前及び入居時に契約書と重要事項説明書を用いて説明を行っている。また、毎年5月に家族会を開き、重要事項の説明を行い、質問を受けている。参加されないご家族には、電話と手紙で説明し、同意のサインをいただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年1回開催される家族会においてアンケートを頂いたり、面会時や運営推進会議で頂いた意見等は、毎月の職員ミーティングで話し合い、対応の統一を図っている。	利用者や家族の意見や要望は、面会の際や家族会等で、把握している。また、毎年、家族を対象としたアンケートを実施している。職員はその内容を話し合い、連絡ノートで共有し、運営に反映している。	

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の職員ミーティングで話し合う機会を持っているが、毎日職員と話をする中で意見を聞く様に努めている。	年２回の職員の意向調査や面接、月１回の職員ミーティングで話し合う機会を持っている。管理者は、日常的に職員と話し合い、意見や要望を検討し、運営に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に２回（9月と3月）職員全員の『意向調査』と年２回（５月と１１月）の面談記録の内容を確認し、職員一人ひとりの要望等の把握に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所内外を問わず、自己研鑽のための研修や資格取得のための研修参加についても、理解していただいている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県内外のグループホームや小規模多機能施設が集う研修会や研究発表会に参加し、意見交換や交流を図る機会を得ている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に自宅に訪問し、ご本人とご家族より要望等を聞いている。安心した関係作りができるまで、何度でも自宅訪問を重ねる様にしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス開始まで何度でも訪問し、ご家族からの話しを聞く様に努めている。事業所に足を運んでいただき、安心して利用できるように、ご家族と一緒に居室の環境整備（和室か洋室か、ベッドの高さの調整や位置、タンスの位置等）を行っている。		

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人の心身の状況やご家族の意見、主治医からの意見を確認し、必要な支援を職員と検討している。検討結果によっては、法人全体、医療や地域包括支援センターにも、協力依頼をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ここでの生活の中で、ご利用者は人生の先輩として、日々様々な生活の知恵を教えていただきながらご家族と思い接している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	誕生日会にはご家族も招待し、一緒に参加していただいている。家族会や敬老会では、利用者と家族へ手作りのプレゼント（昨年はティッシュ入れ、今年はアルバム）を作り、感謝の言葉とともに渡している。		
20	（8）	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	買い物は行きつけの店に行ったり、行きつけの美容院にご家族と出かけている。仕事仲間や親せきと入居前に行っていた定例の行事（お食事会など）に参加できるように支援している。入居前のかかりつけ医も変えず、受診の支援を行っている。	家族の協力を得ながら、行きつけの美容院の利用や馴染みの店での買い物、友人や親戚・家族との面会等、場所や人との関係が継続できるよう支援している。また、県外在住の家族が、入居以来絵手紙を送ってきており、その絵手紙をファイルに整理する支援を行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う人と過ごすことができるように配慮している。お互いの関係性がストレスとならないように、目配りをしている。また、一人ひとりの能力によって助け合う関係ができており、生きがいを持って過ごされていると思われる。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても相談に応じるなど、継続して支援ができることを、契約時や退居手続き時に説明している。入院時には病院に情報提供を行っている。		

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりと関わり、寄り添うケアを目指している。個別の担当者を決めて、対応もしている。新しく入居される方は、生活史もご家族より教えていただき、その方の思いを汲みとれるように努めている。	一人ひとりの意向を把握するために、家族から情報を把握している。また、利用者の個別担当者を決めて、日頃からの会話の中から利用者の意向を把握している。思いを表出できない利用者には、本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日常の会話やレクリエーションの中で話を聞いたり、ご家族の面会時に話を伺ったりしながら情報収集に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の記録の中で、ご利用者の一日の過ごし方や心身の状態を記録している。職員ミーティングにて、職員全員で目標設定や援助方法を検討している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の関わりの中で、ご利用者やご家族の希望を確認している。職員等からは、ご利用者の状況を把握している。職員ミーティングで、目標の設定や援助内容について確認し、一人ひとりの生活を大切にした介護計画を作成するように努めている。月１回のモニタリングは、全職員で評価している。	本人や家族の意向を聞き、職員で意見や提案・気づきを話し合い、介護計画を作成している。また、定期的に介護計画を見直し、利用者の状態に変化があり必要があれば、随時、現状に即した介護計画に変更している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録は、日勤帯と夜勤帯で実施内容、職員の気づき、ご利用者の言葉を記録している。内容は、申し送りやモニタリングに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご利用者の思いによっては、職員だけで支援しきれないこともある。その際にボランティアの力を借りて、できる限り思いに沿った支援ができるように努めている。		

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の民生委員の方の協力で、公民館祭りに作品を出展し、参加させていただいている。また、市教育委員会の協力で『イキイキときめき大学』へ参加し、地域の高齢者との交流を図っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にご利用者やご家族が希望される医療機関を、継続して対応していただけるように支援している。受診や往診の援助を行うとともに、ご家族が付き添った場合は、相互に情報の共有に努めている。	本人や家族の希望するかかりつけ医の受診を支援している。協力医療機関の往診があり、利用者の状況で職員や家族の同行受診もして、適切な医療機関への対応に努めている。また、併設施設の看護師に、利用者の体調を相談したり、週一回、健康チェックを受けるなどの健康管理をしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	母体施設の看護職員と連携が図られており、週１回看護師の健康チックを受けている。また主治医や訪問看護師に相談しながら、日々の健康管理を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された場合は、入院時に情報提供を行うとともに、定期的に面会や電話連絡にて、医療機関関係者と情報の共有と連携を図るように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期の指針については、意向も含めて入居時と年１回の家族会で説明し、確認と同意書をとっている。職員研修を、施設全体で毎年行っている。昨年5月に看取り支援を実施している。	重度化した場合や終末期について指針を作成し、毎年の家族会で、事業所としての対応可能な範囲を説明し、本人や家族の意向について確認して、同意を得ている。職員研修を実施し、看取りを行っている。	家族や医師、職員、関係者と話し合いをしながら、方針を共有して、看取りを経験した。今後も、利用者の段階的な変化に対応したチームでの支援を目指して、マニュアル作成や職員研修の継続を期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時は、母体施設の看護職員に報告し、指示を受けている。救急時の訓練については、施設研修でAEDを使った応急処置の研修を受けている。		

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力により、年に2回防災訓練を実施している。市のハザードマップにより冠水の危険があるため、地域住民にも協力を依頼して、訓練を行っている。	年2回の防災訓練で夜間想定の避難訓練を実施し、地域住民にも参加を呼びかけて協力を得ている。また、定期的な訓練や防災についての勉強会をして、職員に意識づけをしている。	防災訓練に止まらず、災害時の対策に関して理解を深め、併設の施設や地域住民とのより具体的な協力体制を築く取り組みを期待したい。
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉かけについては、職員間で確認しながら対応している。書類についても、鍵のかかる場所に保管している。トイレや入浴時の援助の際は、プライバシーを留意した対応を心がけている。	職員は話し合い、利用者一人ひとりの尊厳やプライバシーを損ねない声かけに努めている。また、排泄や入浴などの羞恥心を伴う介護には、本人の気持ちを大切に対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の会話の中で、その方の思いを知るように努めている。どのような暮らしがしたいのか等、くもん学習療法で引き出した情報をもとに、職員間で思いに沿った介護が提供できるように、ミーティング等で話し合っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日課や業務を優先することなく、その時々で一人ひとりの体調や心身の状況を判断し、気持ちや意向を確認しながら、一日の過ごし方を決めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居前に馴染みの関係だった洋服店や美容室、化粧品屋への買い物支援を行ったり、お出かけの際も、希望に沿ったおしゃれの支援を心がけている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日の料理は、冷凍食品も活用しながら、ご利用者の好みと栄養のバランスを考慮して、ご利用者や管理栄養士と一緒にメニューを考えている。家庭菜園の食材を収穫したり、食材の買い物や調理、片づけの一連の作業を、ご利用者と一緒に行っている。	食事は事業所内で調理をしており、食事作りから片付け等の一部を、利用者ができる範囲で職員と一緒に行っている。利用者の好みや菜園で収穫した野菜を献立に反映したり、手作りおやつを作ったり、外食等で食事を楽しむ工夫を行っている。	

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は管理栄養士が立てており、栄養バランスのアドバイスをいただいている。体調がすぐれず食べれない時は、その方の好みの料理を作っている。水分量に関しては、十分に補給できるように、好みの飲み物を準備している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを行っている。歯磨きの準備や声かけは、その方に合わせて支援している。義歯を使用している方は、夜間に入れ歯洗浄剤による洗浄を行っている。また、年に1回、歯科口腔内検診にてブラッシング指導を受けている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを知り、定時に声かけやトイレ誘導にて排泄援助を行っている。尿意や便意が判断しにくい方については、排泄パターンを知るとともに、その際の動作や表情で判断し、さりげなく援助を行っている。	一人ひとりの排泄パターンを知り、見守りをしながら、自尊心に配慮した声かけやトイレ誘導で、気持ちよく個々に応じた排泄ができるように支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘については、慢性疾患や既往症、薬の副作用等を、健康管理の上からも、主治医やご家族に確認している。特に医療的管理が必要ではない方は、食事に食物繊維が多い食材を調理したり、オリゴ糖やヤクルトの飲用を勧めたり、散歩等運動を心がけるなど工夫をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴に関しては、職員の支援が可能な時間内で、ご本人の希望を聞いて実施している。曜日に関しては、それまでの習慣に合わせて希望を聞いて対応している。少しでもくつろいだ気分で入浴していただけるように、同性介護で対応するなど心がけている。	利用者の体調や希望に合わせて、週3回の入浴をしているが、毎日の希望があれば対応している。個浴以外にも、清拭や併設施設の特殊浴を利用した入浴形態を取り入れており、利用者一人ひとりが気持ちよく入浴を楽しめるよう支援をしている。	

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居時に睡眠リズムについて、一日の過ごし方とともに確認をしている。一人ひとりの睡眠時間が異なるため、今までの生活習慣の情報を大切にしている。また、日中の活動も検討しながら、ゆっくりと心身が休まるように関わっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬や塗り薬は、預かって管理させていただいている。薬の情報については、主治医や薬剤師より情報をいただいており、気になる症状や身体の変化が見られた時も、その都度、相談し、指示をいただいている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	役割については、ご家族や職員間で話し合っている。生活歴を聞いても、実際はそれほど好きではなかったり、できると思っていたことができずに自信をなくすることがないように、ここでできる新たな楽しみを見つける手助けを行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物や時にはご家族の協力を得て、車で遠出する等の支援に努めている。施設に訪問した地域の子供たちとの交流や、婦人会の方の協力を得て、散歩に出かける機会を持っている。	近隣に散歩に適した場所があり、天候に配慮したうえで、利用者の希望より出かけている。買い物や外食、外気浴などの支援をしている。家族の協力を得て、普段行けない場所へのドライブや外出行事を楽しんでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理については、ご本人の能力や希望、ご家族の意向により、ご本人管理と事業所管理で支援している。事業所管理では、毎月、金銭出納表を作成し、ご家族には領収証と共に報告している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族が遠方の方は、手紙や電話にて近況報告を行っている。ご本人が希望すれば、電話をかける支援を行い、ご家族との時間が持てるように援助している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共同生活空間は、明かりは落ち着く光を取り入れ、室温湿度も設定している。ソファー等、普段の生活空間とは別に、音楽や会話を楽しめる空間をつくり、新聞を読んだり、学習に取り組めれるような配慮をし、置物も生活感が感じられるように努めている。	共用空間は、温度や明るさについて配慮しており、清潔が保たれている。玄関には、利用者の行事写真や当日の勤務者や担当を書いた顔写真入りの職員情報が置かれている。食事やレクリエーション、会話を楽しむ等、それぞれの用途でテーブル・椅子・ソファーを配置し、装飾品や花で季節感を取りいれて、居心地よく過ごせる工夫をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	その日その時に、また心身の状況に応じて、今どのように過ごしたいのか等、一人ひとり違うことを理解し、様子を観ながらその時に穏やかに安心してくれせるように支援を心がけている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅での生活環境を、入居前に訪問して確認している。特に使い慣れた家具、お箸、お茶碗、コップ、布団類、大切にされていた置物やアルバムを持参頂いている。また、ご家族の写真を飾ることで、居室が落ち着いた空間になるように、ご家族に協力いただいている。	居室の入り口に手作りの表札があり、利用者が自室がわかるようにしている。居室には、洗面台やタンス等が備え付けられている。大半の利用者はベッドを使用しているが、希望により畳に布団を敷き使用している。本人や家族と相談しながら、使い慣れた日用品や小物等を持ち込み、家族写真や利用者の作品も飾り、好みに合わせた落ち着ける居室となるよう工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	フロアの飾りが混乱を招かないように工夫したり、居室がわかるようにネームボード（表札）を手創りしている。また、床の段差をなくしたり、手すりを設置することで、身体機能の低下があっても、ここでの暮らしが継続できるように努めている。		